

人生100年時代の今、考えたいこと

平成30年度に厚生労働省が公表した日本人の平均寿命は、女性は87.26歳、男性は81.09歳で過去最高を更新しました。

昨年末の既婚者を対象としたある意識調査によると、男性の約8割が「妻より先に死にたい」と回答したのに対し、「夫より先に死にたい」と思っている女性は5割程度であるとのこと。 「自分が先に」と答えた理由としては、寂しいからといった心情的なこともあります。生活面の不安という現実的な答えも多かったようです。特に男性は、家事を含め生活の管理を妻に頼っていたため一人では難しいから・・・という理由もあるのではないのでしょうか。

高齢社会になり、元気なシニアが増え、セカンドライフからその先も考えられる時代になりました。しかし、「定年後、家にいるようになった夫の三度の食事の支度が気になり、外出もままならない」、「もう家政婦から卒業したい」という妻たちの声もよく耳にします。一人になったとしても、不自由なく暮らせるように、また、自分自身の人生を楽しむためにも、早いうちから家事分担など協力し合って生活していきたいものです。

男女が共にいきいきと暮らしていくために、お互いの定年後の人生の過ごし方について、この機会に考えてみませんか。

一度、私たちの中にある思い込みや固定観念を振り返ってみませんか。

※このコラムは、市と協働している男女平等推進事業企画・運営協力員が、日々の生活の中で感じている「男女平等」について執筆しています。

(次回は11月号に掲載します。)

